

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4076000118		
法人名	嘉穂ホームケアサービス有限会社		
事業所名	グループホーム ほたるの里		
所在地 (電話番号)	福岡県嘉麻市桑野2639番地1 (電話)0948-57-3111		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年11月30日	評価確定日	平成22年1月9日

【情報提供票より】(平成21年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16 人
職員数	15 人	常勤 15人, 非常勤 0人, 常勤換算 8.2 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建て		
------	------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,200 円	その他の経費	光熱費 340円(一日)
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり 840 円		

(4) 利用者の概要 (11月20日現在)

利用者人数	16 名	男性 2 名	女性 14 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.8 歳	最低 73 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	嘉麻赤十字病院・吉原医院・あとの歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

遠賀川の源流にも近く、豊かな自然環境の中に、グループホーム「ほたるの里」は位置している。ホームの傍には蛸が生息する川が流れ、また川辺には桜並木が続き、四季折々の風景を見せる。運営者家族の、福祉への思いを実現する形で設立されたこのホームは、全ての居室にトイレやテラスを設置する等、ゆとりある空間づくりにより、2ユニット16名の定員となる。運営者・管理者の地元でもあり、自治会役員を務めたり、消防団に所属する等、地域との根付いた関係があり、職員も地域住民が多く勤務している。恵まれた周辺環境の中、入居者の方々の個性あふれる生き活きとした表情からは、日々のゆったりとした(時には賑やかな声が響き渡る)時間の流れを窺い知る事が出来、また個々の居室では、家族との関係性の深さが伝わってくる。今後は、多様な社会資源の活用も視野に入れながら、更なる展開が期待されるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での指摘事項として、研修記録の充実等が課題となっているが、今後も継続しての取り組みが必要となる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者・管理者・職員による、自己評価作成がなされている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、市町村担当者・桑野区長・普門寺組長・民生委員等の参加により、定期開催されている。状況報告や意見交換を行い、運営に反映させるよう取り組んでいる。今後は参加メンバーの多様化等、広く意見を求めながら、更なる充実が望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	玄関に意見箱を設置し、ホームの相談窓口及び公的機関の相談窓口を案内している。家族とのコミュニケーションの機会を大切にしながら、意見や要望を聴けるよう関係づくりを行い、運営に反映するよう取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営者・管理者の地元であり、自治会役員や消防団での活動が行われている。地域の方が畑仕事の合い間に訪れたり、野菜の差し入れをいただくこともある。地域の宮野小学校の行事に参加したり、また児童がホームに遊びに来てくれる事もあり、入居者の方々の特別の笑顔を見ることが出来る。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	事業所独自の運営理念を掲げている。自然な形で結びついている地域との関係性や、目指している今後の展望等、理念の中に示していくことも検討して欲しい。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	毎朝の申し送り時に理念を唱和し、確認している。理念の共有・実践に積極的に取り組んで行くためにも、より具体的な理念をつくりあげていくことを期待したい。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	運営者・管理者の地元であり、自治会役員や消防団での活動が行われている。地域の方が畑仕事の合い間に訪れたり、野菜の差し入れをいただくこともある。地域の宮野小学校の行事に参加したり、また児童がホームに遊びに来てくれる事もあり、入居者の方々の特別の笑顔を見ることが出来る。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	運営者・管理者・職員による、自己評価作成がなされている。評価結果については、職員全員で検討し、サービスの向上につなげるよう取り組んでいる。		自己評価作成から評価結果の内容の検討に至るまでの過程を、全職員が更に積極的に関わることにより、方針や課題の共有につなげ、継続的な質の確保につなげて欲しい。
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は、市町村担当者・桑野区長・普門寺組長・民生委員等の参加により、定期開催されている。状況報告や意見交換を行い、運営に反映させるよう取り組んでいる。今後は参加メンバーの多様化等、広く意見を求めながら、更なる充実が望まれる。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム ほたるの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	行政各担当者との連携により、情報交換や助言を得て、入居者の方々のよりよい暮らしの実現に向けて取り組んでいる。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現状として制度を活用している方はいないが、外部研修への参加及び伝達研修の実施により、必要となった場合に活用できるよう支援している。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	家族の来訪が多く、その際に日々の暮らし振りや、健康状態を報告している。遠方の方には、手紙や電話にて報告している。2～3ヶ月に1回、「ほたるの里 ホーム便り」を発行し、行事やドライブの様子や、小学生との交流等について、写真を掲載し紹介している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	玄関に意見箱を設置し、ホームの相談窓口及び公的機関の相談窓口を案内している。家族とのコミュニケーションの機会を大切にしながら、意見や要望を聴けるよう関係づくりを行い、運営に反映するよう取り組んでいる。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	異動や離職は殆ど発生していないため、馴染みの職員による支援が継続して行われている。今後も働きやすい職場環境の整備に努めていきたいと考えている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、年齢や性別等ではなく、人柄を重視している。地域住民である職員も多く、離職も少ないため、働きやすい職場環境づくりの成果とも言える。研修参加や資格取得(資格手当等)への支援も行なっている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム ほたるの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	人権に関する外部研修に参加し、ミーティング等において伝達している。高齢者虐待防止や身体拘束に関する研修にも参加し、職員の意識を高めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	グループホーム協議会の研修(新人研修・地域勉強会等)に参加し、伝達研修を行っている。内・外の研修の充実に取り組んでいるが、今後は研修記録の充実が求められる。		研修の内容や参加者、伝達の状況等を明確にするためにも、研修記録の充実が求められる。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会に加入しており、研修参加等による交流を行っている。地区ブロックでの勉強会や見学、情報の共有により、関係性を深めている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	相談や見学にはいつでも対応しており、本人・家族の意向や状況の把握に努め、できるだけサービス利用開始時の不安を解消できるよう努めている。訪問当日にも見学者が訪れ、気軽に対応する姿があった。体験入居にも対応している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	山菜の採り方・裁縫・昔の歌など、年長者である入居者の方々と共に過ごす中で、様々なことを学びながら、支えあう関係を築いている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム ほたるの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を活用しており、生活歴や趣味等、詳細かつ丁寧なアセスメントが行われている。日々の暮らしの中での気づきも記録しながら、職員間での共有が図られている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の意向を大切に、職員の意見も参考にしながら個別性ある介護計画が作成されている。アセスメントの充実があり、課題分析を計画作成へとつなげている。今後は目標設定に、より具体性も持たせることにより、関係者間での共有が図りやすいと思われる。計画書には、それぞれの方々の干支の絵が書いてある。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	日々の実施状況の確認や、詳細で丁寧な個別の記録が作成されている。毎月モニタリングを実施し、定期的見直し及び状況に応じた見直しにつなげている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	冠婚葬祭への参加支援や、美容室への送迎等に柔軟に対応している。入院時には、家族・医療機関との連携により、早期退院に向けた支援を行っている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の意向によるかかりつけ医への受診を支援している。看護職でもあるケアマネージャーと医療機関との連携や、通院記録(投薬・状況等)の作成により、適切な医療活用となるよう取り組んでいる。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム ほたるの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、出来るだけ早い時期から家族や医療機関との話し合いを行い、方針を共有している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	各居室にトイレが設置されており、プライバシーに配慮された設計となっている。記録等の個人情報の取り扱いについては、事務所にて保管・管理を行っている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	一日の大まかなスケジュールはあるが、個々の生活習慣やペースを大切に、レクリエーション等についても、自由参加としている。喫煙をされる方もおり、職員は火元の管理を行ないながら、玄関先で嗜んでいる。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	野菜の皮むきやトレイ拭き等、個々の力を発揮してもらっている。職員も同じテーブルを囲み、見守りながら同じ食事を摂っている。一日の食事内容を写真に撮り、1週間分を掲示しており、献立の確認と興味を持つよう取り組んでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本として隔日の入浴日の設定はあるが、入居者の希望や状況に柔軟に対応するよう努めている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム ほたるの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	アセスメントより生活歴等を把握し、一人ひとりの力を発揮できる場面づくりを支援している。畑で西瓜を栽培し、かかりつけ医に届ける事を楽しみにしている方もいる。訪問当日には、レクリエーションを楽しむ入居者・職員の方々の、とても賑やかな声がホームの中に響いていた。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	体調や天候にあわせて、日常的に散歩に出かけている。また、その季節にあわせた花見やドライブ(小石原・英彦山・添田公園・三光園等)を楽しんでいる。桜の季節には、ホーム裏の桜並木の下にテーブルを持ち出し、弁当を作って花見を楽しむ姿もある。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中、鍵をかけないケアを実践しており、気軽に訪問してもらえるよう、環境づくりに取り組んでいる。職員の見守りや声かけ、またさりげなく寄り添う事により、安全面での配慮を行なっている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回、防災訓練を実施している。近隣に民家は少ないが、管理者は地元消防団に所属しており、また運営者の自宅も隣接していることから、非常時には心強い。心肺蘇生法やAEDについての訓練も実施している。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事摂取量を記録し、水分摂取量については個々の状況に応じてチェックしている。管理栄養士によるアドバイスも受けながら、健康管理につなげている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム ほたるの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	屋久杉や樺なども使用されている室内空間は、高い天井と長い廊下(約50m)が印象的である。廊下には、入居者・職員の手による作品群が飾られ、地域の小学生からの手紙も掲示されている。周囲は豊かな自然環境であり、どの窓からも四季折々の彩りを眺めることができる。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室には、トイレやテラスが設けられており、ゆとりある空間を確保するために、定員も調整されている。トイレのドアは個々の状況にあわせて、カーテンに変更する等の工夫が見られる。使い慣れた家具(鏡台・筆筒・ソファ・椅子・テーブル等)が持ち込まれ、家族の写真や肖像画が飾られた、個性ある部屋づくりとなっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			